



TITLE:

# 完全2組グラフのSk因子分解(位相幾何学的グラフ理論)

AUTHOR(S):

潮, 和彦

---

CITATION:

潮, 和彦. 完全2組グラフのSk因子分解(位相幾何学的グラフ理論). 数理解析研究所講究録 1989, 686: 162-174

ISSUE DATE:

1989-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/101227>

RIGHT:

## 完全2組グラフの $S_k$ 因子分解

近畿大理工 潮 和彦 (Kazuhiko Ushio)

### 1. はじめに

$S_k$  を  $k$  点を結ぶ スター とする。成分がすべて  $S_k$  であるような全域部分グラフを  $S_k$  因子 ( $S_k$ -Factor) とよぶ。完全2組グラフ  $K_{m,n}$  を, 互いに線を共有しないように,  $S_k$  因子の和に分解する  $S_k$  因子分解 の問題を考える。( $k \geq 3$ )

$S_k$  因子分解を巡回的に構成するとき base となる  $S_k$  因子を Base Factor とよぶ。Base Factor を用いた  $S_k$  因子分解について述べる。

### 2. $K_{m,n}$ の $S_k$ 因子分解

$K_{m,n}$  の2組の点集合を  $V_1, V_2$  ( $|V_1|=m, |V_2|=n$ ) とする。 $K_{m,n}$  の  $S_k$  因子分解において,  $S_k$  因子の数を  $r$ , 1つの  $S_k$  因子に含まれる  $S_k$  成分の数を  $t$ , 分解によって得られる  $S_k$  成分の総数を  $b$  とする。1つの  $S_k$  因子に含まれる  $t$  個の  $S_k$  成分のうち, 中心点が  $V_1$  にある  $S_k$  成分の数を  $t_1$ , 中心点が  $V_2$  にある  $S_k$  成分の数を  $t_2$  とする。分解によって得られた  $b$  個の  $S_k$  成分のうち,  $V_1$  の点  $u$  が中心点となる  $S_k$  成分の数を  $r_1$ ,  $V_2$  の点  $v$  が中心点と

なる  $S_k$  成分の数を  $V_2$  とする。

定理 1  $K_{m,n}$  が  $S_k$  因子分解可能

$$\Rightarrow \begin{cases} b = \frac{mn}{k-1}, t = \frac{m+n}{k}, r = \frac{kmn}{(k-1)(m+n)}, t_1 = \frac{(k-1)n-m}{k(k-2)}, \\ t_2 = \frac{(k-1)m-n}{k(k-2)}, r_1 = \frac{\{(k-1)n-m\}n}{(k-1)(k-2)(m+n)}, r_2 = \frac{\{(k-1)m-n\}m}{(k-1)(k-2)(m+n)}, \\ m \leq (k-1)n, n \leq (k-1)m \end{cases}$$

このとき,  $m = t_1 + (k-1)t_2, n = (k-1)t_1 + t_2$  が成り立つ。  $V_1, V_2$  は点  $u, v$  に depend しない。

定理 2  $K_{n,n}$  が  $S_k$  因子分解可能

$$\Rightarrow n \equiv 0 \pmod{2k(k-1)} \quad (k: \text{odd}), n \equiv 0 \pmod{k(k-1)} \quad (k: \text{even})$$

定理 3  $K_{m,n}$  が  $S_3$  因子分解可能

$$\Leftrightarrow b = \frac{mn}{2}, t = \frac{m+n}{3}, r = \frac{3mn}{2(m+n)}, m \leq 2n, n \leq 2m$$

定理 4 (拡張定理)  $K_{m,n}$  が  $S_k$  因子分解可能

$$\Rightarrow K_{am,an} \text{ は } S_k \text{ 因子分解可能}$$

このため,  $k$  を固定したとき, 比較的小さな  $m, n$  に対し, 定理 1 の必要条件の十分性を調べたらよい。一般性を失うことなく  $m \leq n$  と仮定して,  $m \leq n \leq (k-1)m$  の場合を調べる。

定理 5  $m = n = 2k(k-1) \Rightarrow K_{m,n}$  は  $S_k$  因子分解可能

定理 6  $k: \text{odd}$  のとき,  $K_{n,n}$  が  $S_k$  因子分解可能

$$\Leftrightarrow n \equiv 0 \pmod{2k(k-1)}$$

定理 7  $n = (k-1)m \Rightarrow K_{m,n}$  は  $S_k$  因子分解可能

### 3. $S_k$ 因子分解の巡回的構成と Base Factor

$m \leq n < (k-1)m$  とする。このとき,  $m = t_1 + (k-1)t_2$ ,  $n = (k-1)t_1 + t_2$  において,  $t_1, t_2 \neq 0$  である。 $S_k$  因子分解を巡回的に構成するとき, Base Factor となる  $S_k$  因子は次の Base 条件 を満たす。

Base 条件:  $m = r_m \times m_0$ ,  $n = r_n \times n_0$ ,  $V = r_m \times r_n$ ,  
 $t_1 = \alpha \times m_0$ ,  $t_2 = \beta \times n_0$ .

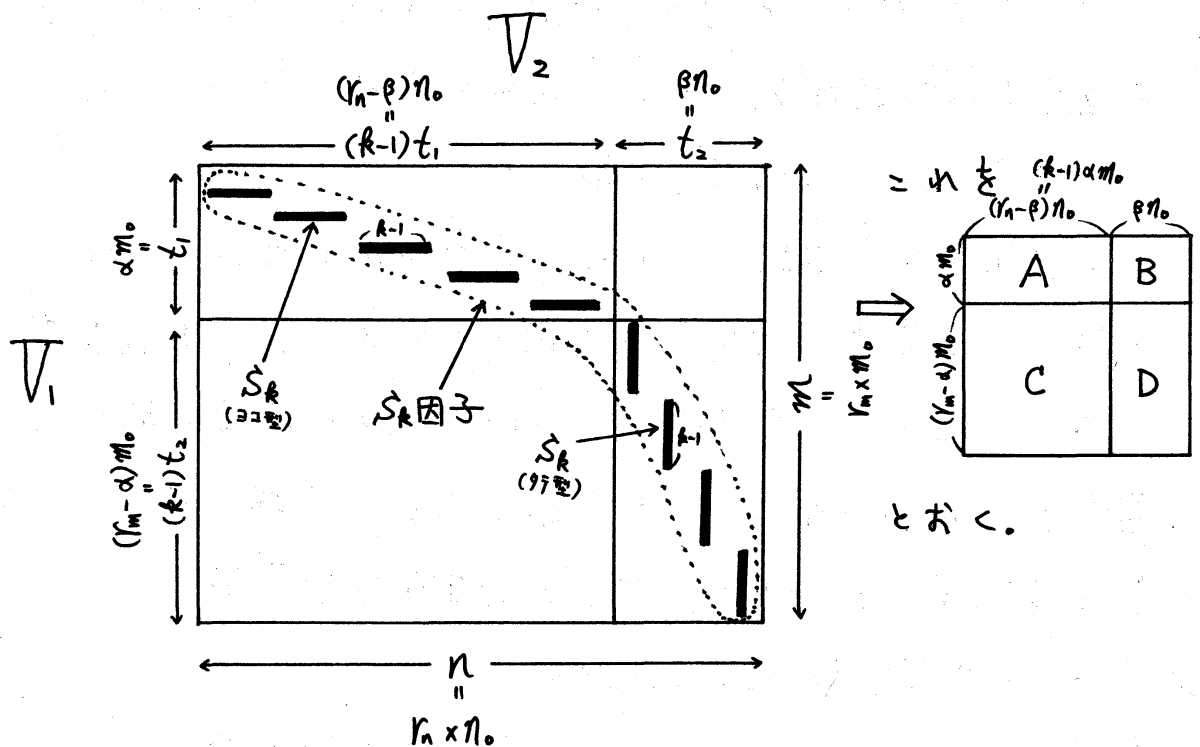
Base 条件のもとで

$$m_0 n_0 = (k-1)t_1 + (k-1)t_2 = |E(S_k \text{ 因子})|$$

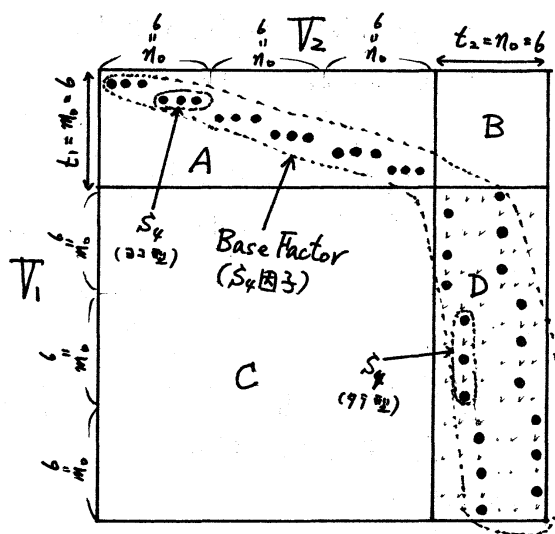
$$(k-1)t_1 = \{m_0 - (k-1)\beta\}n_0 = (r_n - \beta)n_0 \quad \therefore r_n - \beta = m_0 - (k-1)\beta$$

$$(k-1)t_2 = \{n_0 - (k-1)\alpha\}m_0 = (r_m - \alpha)m_0 \quad \therefore r_m - \alpha = n_0 - (k-1)\alpha$$

が成り立つ。これから,  $m_0 > (k-1)\beta$ ,  $n_0 > (k-1)\alpha$  が得られる。



Base Factor の例 ( $k=4, m=24, n=24, t_1=m_0=6, t_2=n_0=6, \alpha=\beta=1$ )

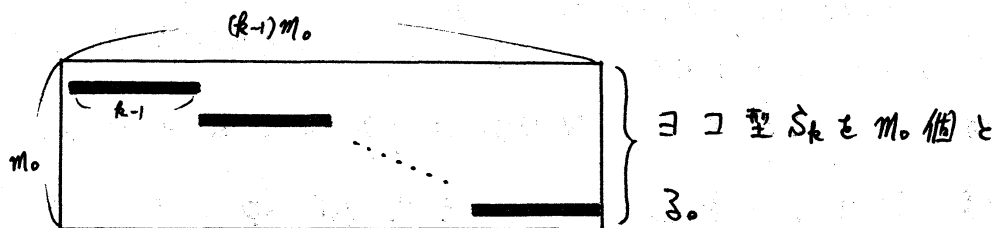


この Base Factor ( $S_k$ 因子) を右へ  $n_0=6$  ずつ, 下へ  $m_0=6$  ずつ巡回的にシフトさせれば,  $4 \times 4 = 16$  個の  $S_k$  因子が得られ, それらの和が  $K_{24,24}$  の  $S_k$  因子分解を与える。

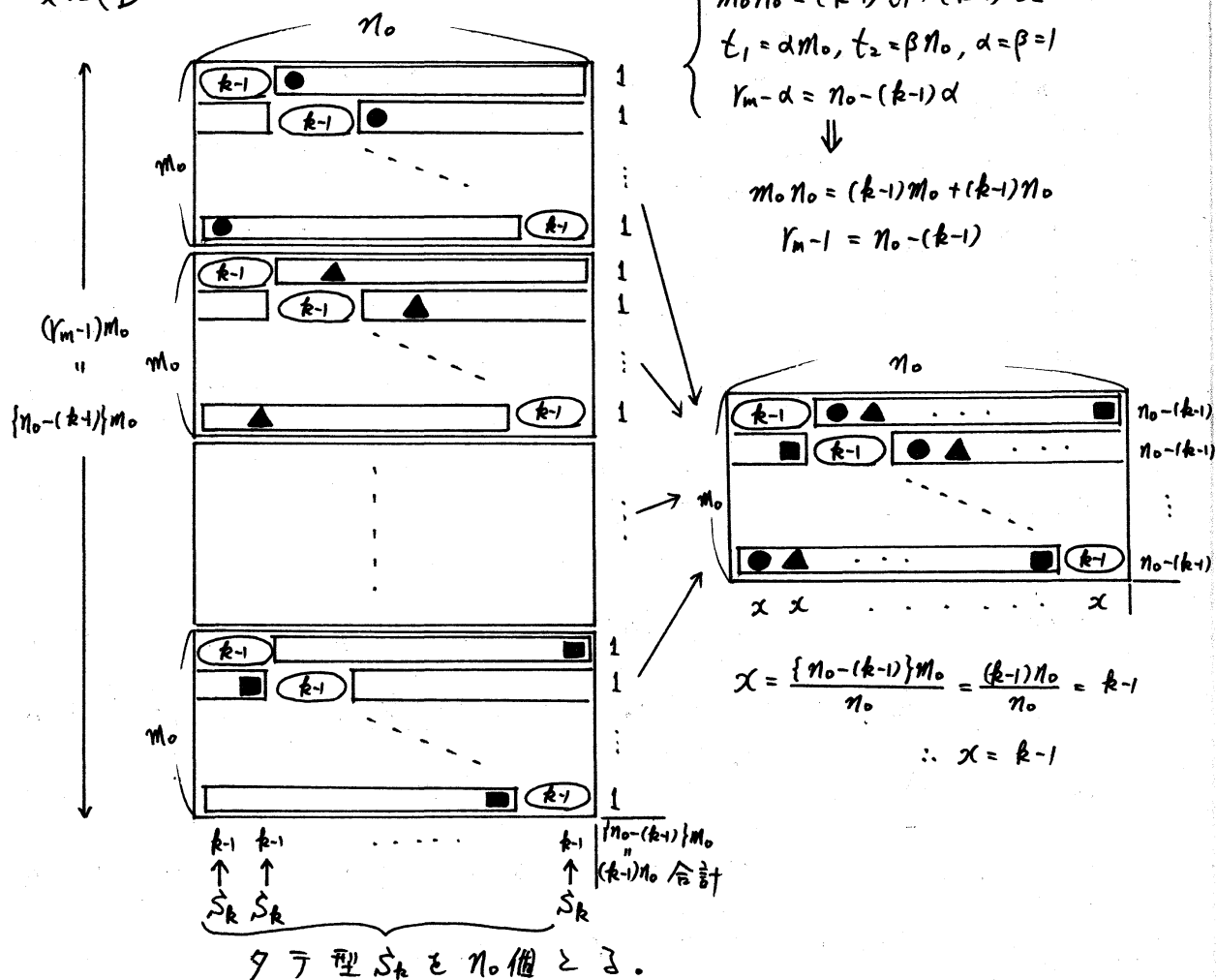
この例から分るように, 領域 A ではヨコ型  $S_k$  (中心点が  $V_1$  にある  $S_k$ ) を  $t_1$  個とり, 領域 D ではタテ型  $S_k$  (中心点が  $V_2$  にある  $S_k$ ) を  $t_2$  個とってできる  $S_k$  因子を上手に選べ, この  $S_k$  因子を右へ  $n_0$  ずつ, 下へ  $m_0$  ずつ巡回的にシフトさせ,  $V_m \times V_n$  個の  $S_k$  因子が, 領域 A, B, C, D を過不足なくカバーするならば, もとの  $S_k$  因子は Base Factor であり, 得られた  $V_m \times V_n$  個の  $S_k$  因子の和が  $K_{m,n}$  の  $S_k$  因子分解を与える。この事は, 定理 1 の必要条件をみたすパラメータ  $m, n, k$  が Base 条件をもみたすとき, 常に成り立つ。以下にこれを示す。

Lemma 1  $\alpha=\beta=1$  の Base 条件  $\implies K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

① 領域 A



領域 D



この様に領域 A でヨコ型  $S_k$  を  $m_0$  個, 領域 D でタテ型  $S_k$  を  $n_0$  個とすれば Base Factor となる。

Lemma 2  $\alpha=1, \beta>1$  の Base 条件,  $m_0$  は  $\beta n_0$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

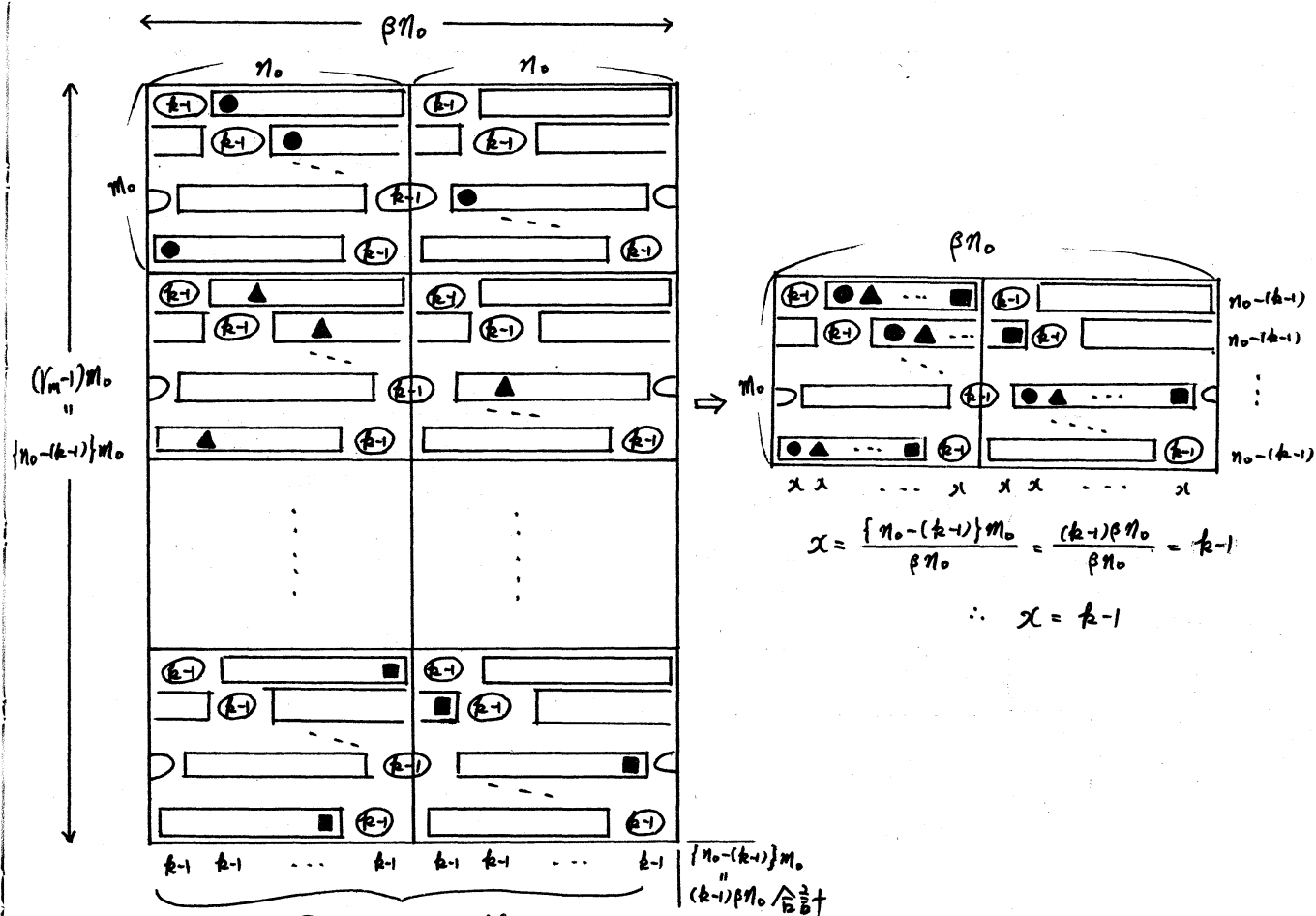
⊙ 領域 A は Lemma 1 と同じくヨコ型  $S_k$  を  $m_0$  個とす。

$$\left. \begin{aligned} m_0 n_0 &= (k-1)t_1 + (k-1)t_2 \\ t_1 &= \alpha m_0, t_2 = \beta n_0, \alpha=1, \beta>1 \\ r_{m-\alpha} &= n_0 - (k-1)\alpha \end{aligned} \right\} \text{より}$$

$$\begin{aligned} m_0 n_0 &= (k-1)m_0 + (k-1)\beta n_0 \\ r_{m-1} &= n_0 - (k-1) \end{aligned}$$

$m_0$  は  $\beta$  の倍数より,  $(k-1)m_0$  は  $\beta n_0$  の倍数となる。

領域 D でタテ型  $S_k$  を次のように  $\beta n_0$  個とす。



タテ型  $S_k$  と  $\beta n_0$  個とる。

Lemma 3  $\beta=1, \alpha>1$  の Base 条件,  $n_0$  は  $\alpha$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

① Lemma 2 で  $m$  と  $n$  を入れ替えてよい。

Lemma 4  $\alpha=1, \beta>1$  の Base 条件,  $n_0 - (k-1)$  は  $\beta$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

① 領域  $A$  は Lemma 1 と同じく  $\exists$  型  $S_k$  と  $m_0$  個とる。

$$n_0 - (k-1) = \rho\beta \text{ とおく。}$$

$$m_0 n_0 = (k-1)t_1 + (k-1)t_2$$

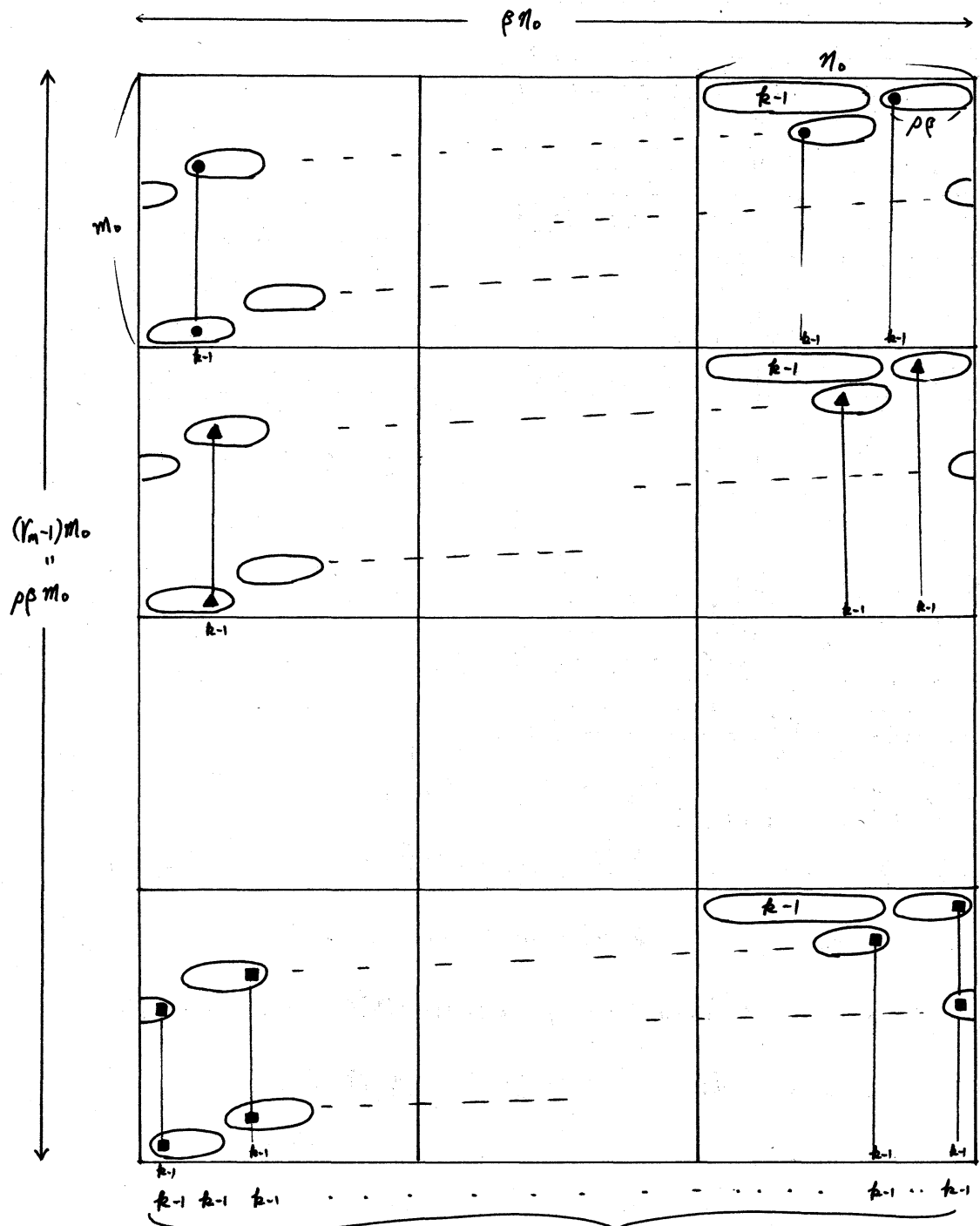
$$t_1 = \alpha m_0, t_2 = \beta n_0, \alpha=1, \beta>1$$

$$r_{m-\alpha} = n_0 - (k-1)\alpha$$

$$\rho\beta \times m_0 = (k-1) \times \beta n_0$$

$$r_{m-1} = \rho\beta$$

領域  $D$  で タテ型  $S_k$  を次のように  $\beta n_0$  個とる。



9 型  $S_k \in \beta \eta_0$  値  $\geq 3$ .

Lemma 5  $\beta=1, \alpha>1$  の Base 条件,  $m_0-(k+1)$  は  $\alpha$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

⊙ Lemma 4 で  $m$  と  $n$  を  $\lambda$  の替之はよい。

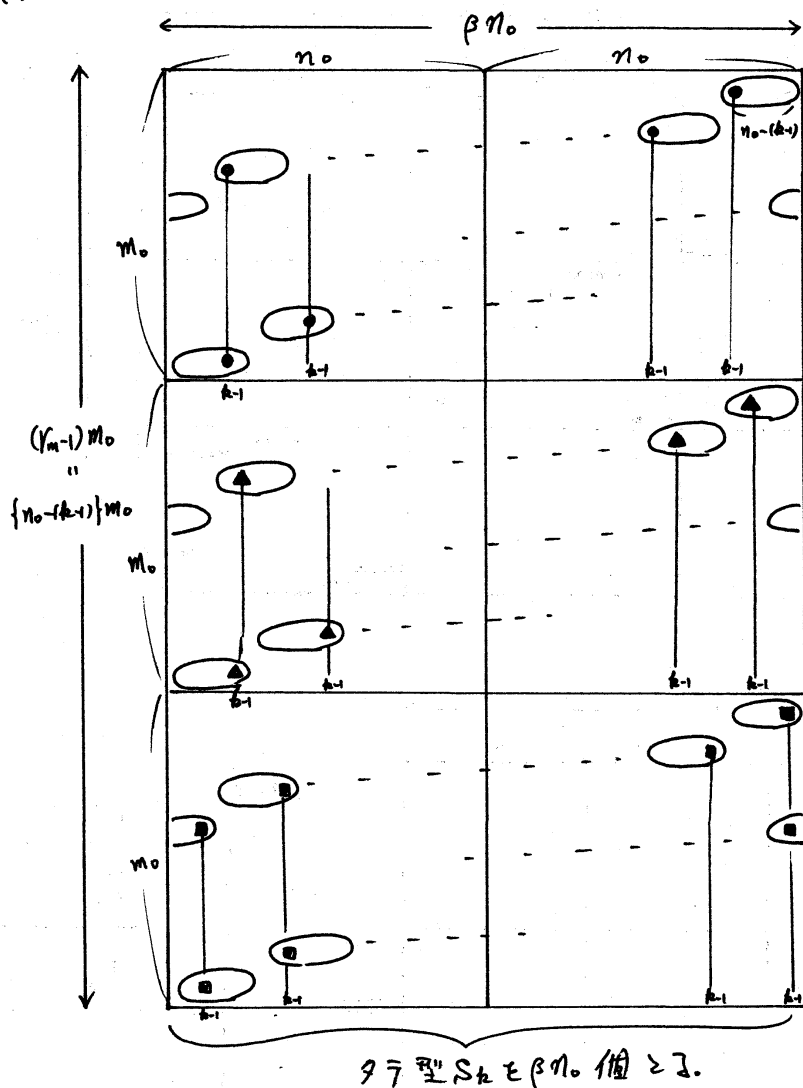


Lemma 6  $d=1, \beta > 1$  の Base 条件  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

① 領域  $A$  は Lemma 1 と同じく  $\exists$   $\square$  型  $S_k \in m_0$  個とる。

$$\left. \begin{aligned} m_0 n_0 &= (k-1)t_1 + (k-1)t_2 \\ t_1 &= d m_0, t_2 = \beta n_0, d=1, \beta > 1 \\ \gamma_m - d &= n_0 - (k-1)d \end{aligned} \right\} \text{よ)} \quad \begin{aligned} m_0 n_0 &= (k-1)m_0 + (k-1)\beta n_0 \\ \gamma_m - 1 &= n_0 - (k-1) \\ \therefore \{n_0 - (k-1)\} \times m_0 &= (k-1) \times \beta n_0 \end{aligned}$$

領域  $D$

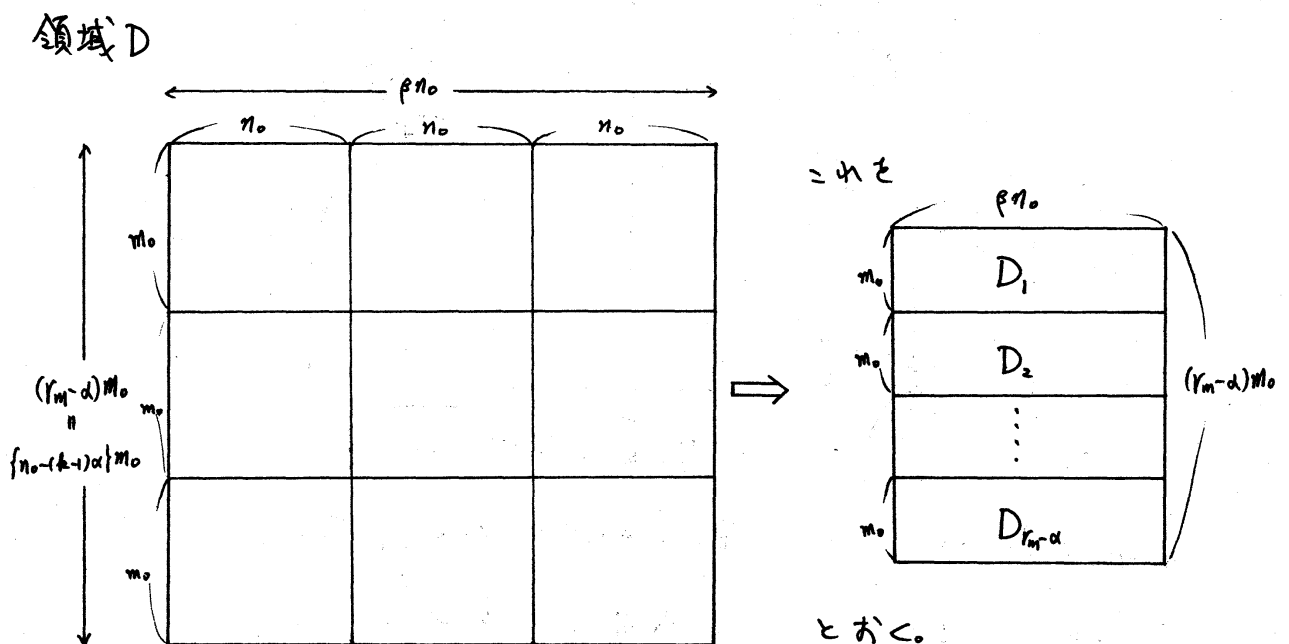
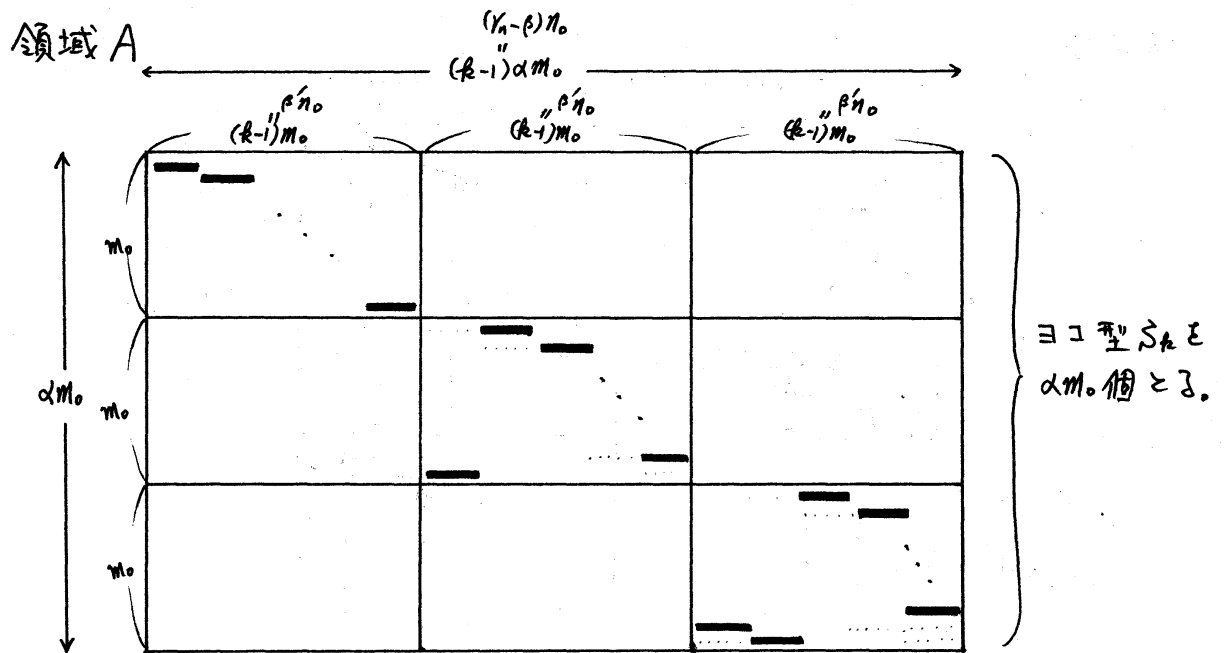


Lemma 7  $\beta=1, d > 1$  の Base 条件  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

① Lemma 6 2<sup>nd</sup>  $m$  と  $n$  を入れ替えばよい。

Lemma 8.1  $\alpha, \beta \geq 2$  のBase 条件,  $r_n - \beta$  は  $\alpha$  の倍数  
 $m_0$  は  $\alpha$  の倍数,  $\{n_0 - (k-1)\alpha\} \times \frac{m_0}{\alpha}$  は  $\beta n_0$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

$$\begin{aligned} \textcircled{\smile} \quad m_0 n_0 &= (k-1)\alpha m_0 + (k-1)\beta n_0 \\ r_m - \alpha &= n_0 - (k-1)\alpha \\ r_n - \beta &= m_0 - (k-1)\beta \end{aligned} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{よ)} \quad \frac{r_n - \beta}{\alpha} = \beta' \text{ とおくと } \beta' n_0 = \frac{r_n - \beta}{\alpha} n_0 = \frac{m_0 - (k-1)\beta n_0}{\alpha} \\ = \frac{(k-1)\alpha m_0}{\alpha} = (k-1)m_0. \quad \therefore (k-1)m_0 = \beta' n_0$$





Lemma 8.2  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $k_n - \beta$  は  $\alpha$  の倍数  
 $m_0$  は  $\alpha$  の倍数,  $\{n_0 - (k-1)\alpha\} \times \frac{m_0}{\alpha}$  は  $\beta n_0$  の倍数でたし  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

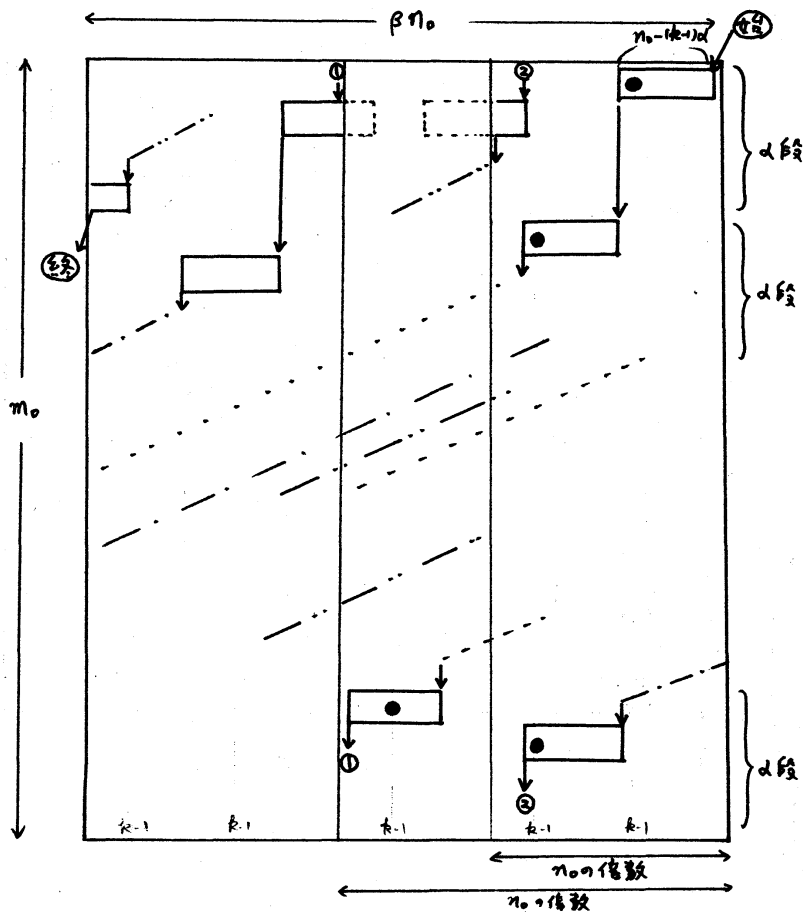
① 領域  $A$  は Lemma 8.1 と同じく  $\exists \square$  型  $S_k$  を  $\alpha m_0$  個 とす。

$$\frac{k_n - \beta}{\alpha} = \frac{m_0 - (k-1)\beta}{\alpha} = \frac{m_0}{\alpha} - \frac{(k-1)\beta}{\alpha} \quad \therefore \frac{(k-1)\beta}{\alpha} : \text{integer}$$

$$\{n_0 - (k-1)\alpha\} \times \frac{m_0}{\alpha} = \frac{(k-1)\beta n_0}{\alpha} = \frac{(k-1)\beta}{\alpha} \times n_0 \quad \therefore \{n_0 - (k-1)\alpha\} \times \frac{m_0}{\alpha} \text{ は } n_0 \text{ の倍数}$$

各  $D_i$  は  $m_0$  個のボックスを  $\alpha$  段下りに巡回的にもつ。例えば,

$D_1$  では :



$D_2, D_3, \dots$  では  $\bullet$  の位置を 1 つずつ右へ とす。  $D$  で  $\square$  型  $S_k$  が  $\beta n_0$  個 とす。

Lemma 9.2  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $k_n - \alpha$  は  $\beta$  の倍数  
 $n_0$  は  $\beta$  の倍数,  $\{m_0 - (k-1)\beta\} \times \frac{n_0}{\beta}$  は  $\alpha m_0$  の倍数でたし  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

Lemma 8.3  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $\gamma_n - \beta$  は  $\alpha$  の倍数  
 $m_0$  は  $\alpha$  の倍数でたゞ  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

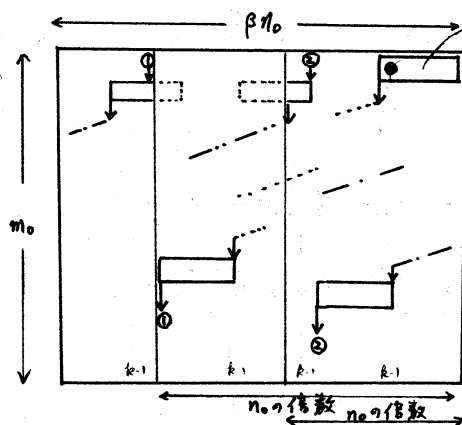
① 領域  $A$  は Lemma 8.1 と同じく  $\exists$  コ型  $S_k$  を  $\alpha m_0$  個とる。

$(m_0, \alpha) = d$ ,  $m_0 = d m'_0$ ,  $\alpha = d \alpha'$ ,  $(m'_0, \alpha') = 1$  とおく。  $\frac{\gamma_n - \beta}{\alpha} = \beta'$  とおく。

$\gamma_n - \beta = m_0 - (k-1)\beta$  より,  $m_0 - (k-1)\beta = \alpha \beta'$   $(k-1)\beta = m_0 - \alpha \beta' \therefore \frac{(k-1)\beta}{d} = \frac{m_0 - \alpha \beta'}{d} = m'_0 - \alpha' \beta'$

このとき,  $\{n_0 - (k-1)\alpha\} \times m'_0 = \frac{\{n_0 - (k-1)\alpha\} m_0}{d} = \frac{(k-1)\beta n_0}{d} = \frac{(k-1)\beta}{d} \times n_0 \therefore \{n_0 - (k-1)\alpha\} \times m'_0$

は  $n_0$  の倍数である。各  $D_i$  で,  $\alpha$  1 段から出発して  $m'_0$  個のボックスを  $\alpha$  段下りた巡回的にとる。次に,  $\alpha$  2 段の続きのボックスから出発して  $m'_0$  個のボックスを  $\alpha$  段下りた巡回的にとる。  
 ... 終りに,  $\alpha d$  段の続きのボックスから出発して  $m'_0$  個のボックスを  $\alpha$  段下りた巡回的にとる。このとき  $D_i$  では,  $m_0$  個のボックスが各段 1 個ずつとられる。例えば,  $D_1$  では:



$D_2, D_3, \dots$  では  $\bullet$  の位置を 1 つずつ右へとる。D でタテ型  $S_k$  が  $\beta n_0$  個とられる。

Lemma 9.3  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $\gamma_n - \alpha$  は  $\beta$  の倍数  
 $n_0$  は  $\beta$  の倍数でたゞ  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

Lemma 8  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $r_n - \beta$  は  $\alpha$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

③ Lemma 8.1-8.3 より成立。

Lemma 9  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件,  $r_m - \alpha$  は  $\beta$  の倍数  $\Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$

③ Lemma 9.1-9.3 より成立。

Lemma 10  $\alpha, \beta \geq 2$  の Base 条件

$$\left. \begin{array}{l} r_n - \beta \text{ は } \alpha \text{ の倍数でない, } r_m - \alpha \text{ は } \beta \text{ の倍数でない} \end{array} \right\} \Rightarrow K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k$$

③  $\left. \begin{array}{l} (n_0, \alpha) = d_1, n_0 = d_1 n'_0, \alpha = d_1 \alpha', (n'_0, \alpha') = 1 \\ (m_0, \beta) = d_2, m_0 = d_2 m'_0, \beta = d_2 \beta', (m'_0, \beta') = 1 \end{array} \right\} \text{ とおく。}$

$r_m - \alpha = n_0 - (k-1)\alpha$ ,  $r_n - \beta = m_0 - (k-1)\beta$  より,  $r_m$  は  $d_1$  の倍数,  $r_n$  は  $d_2$  の倍数。  
 $r_m = d_1 r'_m$ ,  $r_n = d_2 r'_n$  とおく。  $m' = r'_m \times m'_0$ ,  $n' = r'_n \times n'_0$  とおけば,

$m = d_1 d_2 \times m'$ ,  $n = d_1 d_2 \times n'$  となる。  $m', n'$  は定理 1 の必要条件および Base 条件をみたす。また,  $r'_n - \beta'$  は  $\alpha'$  の倍数,  $r'_m - \alpha'$  は  $\beta'$  の倍数が 11-13 ので, Lemma 1-9 より  $K_{m',n'} \xrightarrow{F} S_k$ 。拡張定理より

$$K_{d_1 d_2 m', d_1 d_2 n'} \xrightarrow{F} S_k \therefore K_{m,n} \xrightarrow{F} S_k.$$

定理 8 定理 1 の必要条件をみたす  $m, n, k$  が Base 条件をみたすとき,  $K_{m,n}$  は  $S_k$  因子分解可能。

### 参考文献

- [1] H. Enomoto, T. Miyamoto and K. Ushio,  $C_k$ -factorization of complete bipartite graphs, *Graphs and Combinatorics* 4 (1988) 111-113.
- [2] K. Ushio,  $P_3$ -factorization of complete bipartite graphs, *Discrete Math.* 72 (1988) 361-366.